

<今回>306回目 2021年11月26(金)15時~18時 第9会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p367、2行目(2つの王朝)また両者年代 より

<前回>305回目(21-11-8)出席者 8名

資料(21-11-08-1)前回のまとめ(清水)

一2)風土記(清水)

一3)出雲風土記(清水)

一4)筑後風土記(高山)

A 報告 このまま新型コロナが収束に向かうことを期待しよう。減少傾向に医学学会は説明できていない。

B 資料 2)H26年にまとめたもの。古田先生の著作で取り上げられた風土記の紹介。甲類と乙類の2種類ある。郡風土記、県風土記。出雲風土記に特殊性、原文改定が、この2005年まで残っている。どの学術書にも「宮」の文字はない。山西に分解している。出雲風土記の原書を見れば「宮」の文字は明らかである。

3)2008年出雲大社遷宮時の見学報告。大阪発の一般ツアーに参加した。本殿に上り回廊を一周して正面左端より大国主がいますという右奥の一角をのぞき込むも不明。小泉八雲は強制的に案内させ、本体の小社をみたという。お像のお顔を拝顔できたかは書き残していない。

4)高山氏より、筑前の風土記逸文、(甲類)、筑後の国の風土記逸文(乙)類が示され、現存風土記、風土記逸文表が示された。九州風土記は井上通泰(柳田国男の兄)により2種類あると発見。学会では甲乙どちらが早い結論つけられていない。それに関連して日本書紀の県(あがた)の所在地一覧が示された。これによって乙類は九州だけに存在した風土記で「県」の分布から「県」は九州には古くから存在した名称で「日本日記」の転用であるとも考えられる。古田先生はこの書の段階では磐井一継体戦争はあったとして解説されたが、後年磐井戦争はなかったと変更された、しかし風土記に示された岩戸山古墳と発掘の結果が一致して、これも否定することになり、不可解のままである、

C読書 364頁 二つの王朝

1)倭と日本 隋書では倭国(列伝)と倭国(本紀)。旧唐書では2つの国は、はっきり書き分けられている。①倭国伝 倭は古の倭奴国なり、京師を去ること1万4千里、東西5月行、南北3月行。世輿中国と通ず。阿每多利思北弧の跡を受けた王朝と認め、唐の太宗は遠きを怜み毎年来なくてもよいとした。貞観5年(631年)高表仁を使者に任命して派遣したが、王子と礼を争い、綏遠の才なく、朝命を宣べずに帰る。とある。

2)これに相当する記事が日本書紀にある。時、内容が微妙に異なる。

舒明2年(630年)8月 大仁犬上三田耜を大唐に派遣

舒明4年(632年)8月 大唐高表仁を派遣、三田耜を送らしむ。10月使人高表仁、難波津に泊まる。

5年(633年)1月 高表仁帰国、対馬まで見送る。

倭国とは争い、日本国とは友好的。江戸明治以来、学者たちは倭国と日本国を同一として解釈しようとした。

次回日程 2021-12-10(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

一12-24(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

2022-1-10((月・祭日) 16時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室